

ながせがわ (5) 長瀬川に緑がいっぱい

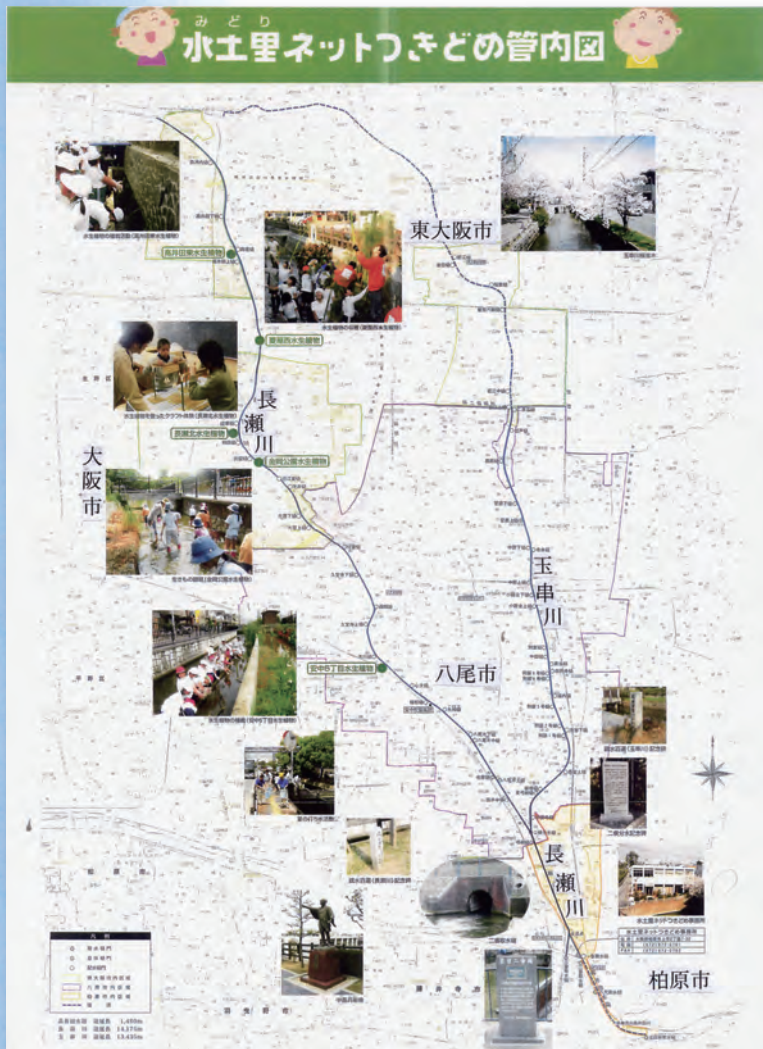


▲八尾高校校庭の狐山

長瀬川は昔の大和川の本流だった

長瀬川は、大和川の水を引き込んで中河内地域を流れる長さ14kmの農業水路です。八尾市二俣から長瀬川と玉串川に分かれています。

大和川つけかえまでは幅の広い大きな川でした。八尾高校の狐山も昔の大和川の堤防の一部だと言われています。



田畑のすみずみまで水がいきわたるように、農業用水を維持管理しているのが土地改良区です。柏原市に事務所がある水土里ネットつきどめ（築留土地改良区）が、長瀬川や玉串川の樋門による水量調節や、ゴミや藻の掃除をしています。

子どもたちもいっしょに緑を復活

長瀬川の改修工事から6年目の1999年、川をきれいにしようがんばっている市民と協力した活動が始まりました。

コンクリートの川底の一部に、ヤシガラマットをしけるように工事がされ、小学生と一緒に水生植物を植えました。それから毎年6～7月に水生植物を植え、秋に収穫しています。

水生植物は水をきれいにしてくれる微生物のすみかになり、魚や虫が育ち、卵をうむ場所になっています。

しかし、水生植物をそのままにしておくと、やがて枯れて水質悪化（富栄養化）の原因になります。秋の収穫祭には、かれ草をかりとって川がよごれるのを防ぐ大切な役割があります。

また、収穫祭では水生植物でいろいろな工作をして楽しんでいます。



▲収穫祭はボートに乗って



▲水生植物を植えました

考えよう・調べよう

水生植物を植えてよいか悪いかを考えてみましょう。

収穫祭にはどのような役割がありますか。

長瀬川に外国からきた動物や植物（外来種）も入りこんでいます。どうしてでしょうか。